

哲学の道デザイン検討会議



第2回会議資料

デザイン検討議題

第2回会議：哲学の道の路面に関する
配慮(検討)項目の整理等について

- これまでの経過
- 第1回会議における委員の皆様の御意見
- 配慮(検討)項目の整理
- 委員以外の皆様の御意見
- 専門家（ホタル、チョウ、サクラ）へのヒアリング
- 路面デザイン検討の方向性
- 舗装の紹介(参考資料)

これまでの経過 ～ 第1回会議 ～

第1回会議：哲学の道にふさわしい景観に調和した路面のデザインについて、専門的見地及び地域的視点から意見や助言を求めるため、令和6年10月7（月）に第1回検討会議を開催しました。



3

これまでの経過 ～ 現地視察 ～

現地視察：第1回会議において、様々な路面デザインについて話題にあがり、現地視察実施の御意見をいただきました。そこで、令和6年12月17日に「哲学の道」のほか、景観に配慮した路面として話題にあがった「半木の道」や「賀茂川右岸にある路面」、石畳風舗装として「白川筋の路面」の現地視察を行いました。

(1) 半木の道とその周辺



(2) 白川筋



(3) 哲学の道



4

第1回会議における委員の皆様の御意見

現状への意見

①現在の路面（自然石移動型（砂利区間））の短所

- (1)車が通行できる砂利道の区間は、路面の状態が悪い
- (2)大きな石、水たまり、地面の隆起がない、歩きやすい道にしたい
- (3)砂利道はきれいだが、コンクリート部に砂利が飛び汚く見える
- (4)哲学の道の土部分は、水たまりができたり、小石の飛散、車椅子の方には危険
- (5)砂利道の箇所は、掃除が行き届いておらず、雑草も生えている
- (6)砂利道は、雨が降った後は凸凹するなど、生活道路として色々な問題がある
- (7)砂利部分では、沿道住民が土埃の掃除など毎日大変な思いをされている
- (8)砂利部分は水たまりなどがあると自転車で真っすぐ走れないので景色を楽しめない。また、足の悪い方は大変だと思う
- (9)砂利道は自転車を通りにくい

道路管理者：安全面、維持管理面に課題がある

③現在の路面（自然石固定型（舗装区間））の短所

- (1)舗装の凸凹、埋設企業者の掘削復旧跡、補修跡の色合いが気になる
色を合わせた補修などは、できないのでしょうか
- (2)舗装された部分では、つぎはぎの補修跡や埋設管工事跡が目立ち、舗装が少し掘れた箇所や細かな舗装骨材が削れたりしている

道路管理者：昭和60年代に舗装化した区間は全体的に状態が悪くなってきている

②現在の路面（自然石移動型（砂利区間））の長所

- (1)土の優位性（表面温度の低さ（ペットの散歩）、蓄熱しない、水を吸う）
- (2)最近、水たまりがある道は、哲学の道以外にはほとんどないので、そのような光景があってもいいと思う
- (3)景観が良いので、大豊神社から南側は砂利道のまま残すことはできないか

④現在の路面（自然石固定型（舗装区間））の長所

- (1)舗装の箇所は、落ち葉清掃がしやすい
- (2)洗心橋より北は、概ね舗装されているのでとても歩きやすい

⑤新しい技術

- (1)土埃を低減できる商品の活用等を行い「新しい地道」の整備
- (2)昔からの砂利の風情を大事にされたい方も多いため、水はけがよく、砂利が散らない、新たな技術がないものか
- (3)水はけの良い舗装や温度上昇を抑制する舗装を検討してほしい
- (4)舗装の構造基準や経済性にも配慮する必要がある
- (5)車道にも用いられる礫石の舗装（例えば石畳風の舗装）は、本物の石をきれいに見せたいので、綿密に色を調整することができるため、周辺景観になじんだ様々な整備事例があり、それらを集めて議論を深めていければいい
- (6)舗装の方法には、砂利や真砂土舗装、通常のアスファルト舗装や半たわみ舗装など色々ありますが、それらが対比、対立しているのではなく、それぞれのメリットを組み合わせた折衷的な技術がないのかという観点は非常に重要なこと

⑥自然石移動型（砂利区間）と自然石固定型（舗装区間）の折衷案

- (1)車椅子が通れる幅だけを舗装し、砂利を残してはどうか
- (2)砂利道を残すとか、全部舗装するとかの両極端ではなく、それぞれの良いところを残す折衷案を考えたい

5

配慮(検討)項目の整理

配慮(検討)項目

①生活環境への配慮

- (1)哲学の道の土部分は、水たまりができたり、小石の飛散、車椅子の方には危険
- (2)砂利道は、雨が降った後は凸凹するなど、生活道路として色々な問題がある
- (3)砂利部分では、沿道住民が土埃の掃除など毎日大変な思いをされている
- (4)景観と機能に配慮した舗装の検討してほしい
- (5)色々な人（車椅子・ベビーカー・杖を利用されている方、家族連れの方等）が集える場所にしたい



②道路の安心・安全(維持管理面)への配慮

- (1)大きな石、水たまり、地面の隆起がない、歩きやすい道にしたい
- (2)経済性にも配慮しながら持続的に舗装を機能させ、道路管理者が負う管理責任の部分もしっかり踏まえて議論することが重要と思う
- (3)修繕材料の色や素材が異なるとどうしても景観が損なわれる。今後のメンテナンスや小規模な修繕への対応も課題である
- (4)舗装の凸凹、埋設企業者の掘削復旧跡、補修跡の色合いが気になる。色を合わせた補修などは、できないのでしょうか
- (5)舗装された部分では、つぎはぎの補修跡や埋設管工事跡が目立ち、舗装が少し掘れた箇所や細かな舗装骨材が削れたりしている

③景観への配慮

- (1)道の景観を美しくしたい
- (2)地域の方が慣れ親しんだ風景を保ちたい
- (3)道には、連続性といった繋がり、他、スポット的な考え方もあり、総合的な検討が必要
- (4)皆さんの鑑賞に堪える立派な道を子孫に残す
- (5)無電柱化などを検討してほしい
- (6)哲学の道にふさわしい色というのは必ずあると思うので、学識経験者の方に検討してほしい
- (7)昭和45年の哲学の道整備時に比べて、デザインの可能性は高まっており、広く可能性を検討、共有しながら、メリット、デメリットを踏まえていくことが重要と思う

④環境への配慮

- (1)疏水側に地道があるので大丈夫と思うが、舗装すると桜に影響がでないか心配である
- (2)土の優位性（表面温度の低さ（ペットの散歩）、蓄熱しない、水を吸う）
- (3)水はけの良い舗装や温度上昇を抑制する舗装を検討してほしい
- (4)桜の木陰が涼しい陰影のある道
- (5)桜の寿命は50年と言われており、桜の自根が出ているのは、年月が経った古いものであり、舗装の影響ではないと思う

⑤その他

バリアフリー面(点字)

- (1)道幅が広い道路が交差する箇所だけでも、景観に配慮した点字ブロックが必要だと感じた

資源の再利用

- (2)市電の敷石を再利用している事例もあるので、不要になったものを再利用できないか

6

委員以外の皆様の御意見

意見

① 道路の安心・安全(維持管理面)

- (1)将来にわたって維持管理が出来る手法により整備すること
- (2)「地道」として、みんなが通行しやすく、住民にとって快適に生活できるよう、日常からの整備及び維持管理をしてほしい
- (3)道の基本的なところを直して市民が安全で快適に過ごせるようにしてほしい

② 景観

- (1)「地道」の良さを生かしながら、周辺環境と調和したデザインを検討すること
- (2)百年、二百年先を見通したデザインを考えること

③「地道」要望

- (1)「地道」の良さを生かしながら、周辺環境と調和したデザインを検討すること
- (2)舗装してほしくないという声があるという事実も踏まえ、方策検討してほしい
- (3)「地道」として、みんなが通行しやすく、住民にとって快適に生活できるよう、日常からの整備及び維持管理をしてほしい
- (4)土の道の優位性に留意し、「よく整備された土の道」を基本に検討されること
- (5)土の道を残すことはたくさんの恩恵があり、自然やそれを楽しむ人々の存在も考慮してほしい(他同様意見あり)

④ 環境

- (1)重層的な機能を持つ道として、自然環境の観点から検討されること
- (2)植生の専門家への意見聴取を行うこと
- (3)生物の専門家への意見聴取を行うこと
- (4)サクラ並木の保全についての方策について明確にすること
- (5)ゲンジボタル及びその生息地並びにキマダラルリツバメの保護・保全についての方策について明確にすること



ゲンジボタル



キマダラルリツバメ

⑤ その他

- (1)道路の舗装は、土地に係る固定資産税評価額を上昇させる一つの要因となる

7

環境に対する専門家へのヒアリング内容

◆ ヒアリングした生物・植物

		
ゲンジボタル	キマダラルリツバメ	サクラ(ソメイヨシノ)
・産卵場所は疎水の護岸部分 ・幼虫時代は水中(疎水)で過ごし、成虫になると陸上で生活する ・適度に暗い環境を好む ・疎水東側に多く生息している ・京都市天然記念物	・ハリブトシリアゲアリとの共生関係 ・古木に産卵する ・乾燥し過ぎず適度な湿度が維持されている場所や水路(水辺)が近くにある環境が生育に適している ・絶滅危惧種	・約2キロの疎水沿い散策路にソメイヨシノ等約400本が連なり桜のトンネルを形成 ・病気や環境の変化に弱い特徴 ・虫など生き物の住処 ・春には多くの観光客が訪れ、京都を代表する桜の名所として全国的に知られる

写真引用元:京都の自然200選

◆ ヒアリング内容

- ・舗装化することで生物等にどのような影響があるか
- ・舗装工事を実施する場合の留意点
- ・各種生物等の生育環境を守るために必要なこと

8

専門家の御紹介

遊磨教授(龍谷大学 先端理工学部 環境生態工学課) ※全国ホタル研究会会長

研究テーマ

生態学、環境学、環境影響評価

ヒアリング内容

哲学の道周辺に生息するゲンジボタルの具体的な生息地や工事が与える生息環境への影響などについて

上田准教授(大阪公立大学大学院 農学研究科)

研究テーマ

動物生態学、進化生物学、保全生物学

ヒアリング内容

哲学の道周辺に生息するキマダラルリツバメの具体的な生息地や工事が与える生息環境への影響などについて

大平准教授(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 環境計画研究部門)

研究テーマ

緑地計画、地域資源を生かしたランドスケープに関する研究など

ヒアリング内容

工事がサクラに与える影響などについて

ヒアリング結果 ～ ゲンジボタル ～

長期的な影響

舗装化することでゲンジボタルにどのような影響があるのか

- ・ 舗装自体はゲンジボタルの生息地に直接影響しないが、地下への雨水浸透が減少し、遊歩道内の草木に若干影響が出る場合がある。
- ・ 遊歩道横の草木のために土壌を湿潤に保つことが望ましく、透水性舗装も検討されるべきである。

短期的な影響

工事をする場合は何に気をつけたらいいか

- ・ 工事による騒音、ほこり、遊歩道内の樹木への影響、夜間工事における照明の配慮が必要である。
- ・ 工事時期はゲンジボタルがさなぎから成虫になる4月～7月を避けて、幼虫が水中で過ごす冬に行うのが望ましい。
- ・ 幼虫が水中にいる期間であっても夜間の照明はできる限り避け、疏水内を照らさないように配慮する必要がある。

長期的な対策

今後ゲンジボタルの生育環境を守るためには何をしたらよいか

- ・ LED市街灯は大きな影響を与えるため、遊歩道内を照らさないようにするなどの配慮が必要であり、LED市街灯の色は、暖色系が望ましい。
- ・ ゲンジボタルが好む適度に暗い環境を保つため、水際へ張り出す枝をあまり剪定せず、疏水上部の樹木の枝が5～6割程度覆い被さった環境をつくることが重要である。
- ・ ゲンジボタルの餌となるカワニナを食べるコイやニゴイが疏水内に生息しているため、その対策が課題となる。また、さなぎになる場所を阻害する可能性のある外来植物の管理も必要である。
- ・ ウッドチップ舗装により、温暖化による太陽光の路面の照り返しが環境へ与える影響を低減させることができる。

ヒアリング結果 ～ キマダラルリツバメ ～

長期的な影響

舗装化することでキマダラルリツバメにどのような影響があるのか。

- ・ 舗装化による環境の変化で、共生関係にあるハリブトシリアゲアリ（以下、「アリ」という。）が営巣場所を移動させる可能性がある。
- ・ アリの生息場所の変化は、キマダラルリツバメ（以下、「チョウ」という。）の生育に影響を与える可能性がある。（チョウの幼虫はアリの巣で育ち、アリが世話をする。）
- ・ 舗装化する場合は、車両通行可の区間から優先して実施するなど、段階的に影響があるかないか様子を見ながら、環境を一挙に変えないように配慮することが重要

短期的な影響

工事をする場合は何に気をつけたらいいか

- ・ 工事前に環境モニタリング調査（生息調査）を実施し、アリの生息地を確認することが重要
- ・ 工事を行う場合は、チョウの成虫が発生する6～7月を避け、冬場に行う方が影響は少ない。

長期的な対策

今後キマダラルリツバメの生育環境を守るためには何をしたらよいか

- ・ チョウが生息するためには、アリが生息する古木が存在し、乾燥し過ぎず適度に湿度が保たれ、周囲に高い建物がなく日当たりの良い環境が必要
- ・ 成虫が吸蜜するヒメジョオンが6～7月まで生育できるよう、除草を避けることが望ましい。
- ・ アリは枯れた木には営巣しないため、アリが生息できるような適切な環境を維持・管理することが重要（安易に老齢化した木を付近に置いて、アリの巣の移転を促すことは極めて難しい）

11

ヒアリング結果 ～ サクラ(ソメイヨシノ) ～

長期的な影響

舗装化することでサクラにどのような影響があるのか

- ・ 哲学の道のサクラは寿命を迎えており、舗装の有無に限らず老齢化により近い将来枯死する。
- ・ 遊歩道のある区間のサクラは道路側への根の侵入がなく、舗装化による影響はほとんどないと推測される。

サクラの生育について

- ・ 遊歩道がない区間の狭い植栽帯は、サクラを生育するのに十分なスペースではない場所もあり、舗装することよりも倒木等の危険性が高いことが問題である。
- ・ 戦後盛んに植えられたソメイヨシノという品種は寿命を迎えていることに加え、クビアカツヤカミキリ（外来害虫）による被害が深刻化しており、全国的に枯死や伐採が懸念されているため、品種や樹種自体の転換も含めて、長期的な更新計画を策定して取り組む地域もある。

短期的な影響

工事をする場合は何に気をつけたらいいか

- ・ 遊歩道がない区間の狭い植栽帯では根が道路側に侵入していると推測されるため、工事における掘削や転圧により、サクラの根を傷つける可能性が大きいと考えられる。

長期的な対策

今後サクラの植生環境を守るためには何をしたらよいか

- ・ 哲学の道のサクラは、老齢化し樹勢が弱まったものも見受けられるため、樹木医等の専門家による危険度判定を実施し、危険木の把握と必要に応じた植替え等の対応が必要である。
- ・ 費用がかさみ耐久性が期待できないなどの側面はあるが、遊歩道がない狭い区間では、庭園や公園の園路などで使われる土系舗装であれば、桜や景観への影響を最小限にした舗装手段であると考ええる。
- ・ サクラとゲンジボタルの関係については、ホタルは光を嫌うため、川岸に高木等が茂る環境が必要となるが、仮にサクラが歯抜け状態になったとしても、街灯の照射位置や夜間の車両通行量をコントロールすることなどによって、光害を最小限とすることは可能である。
- ・ 遊歩道がない区間は植栽帯の幅が狭く、サクラの生育場所に不向きであるため、倒木のリスクが懸念される。
- ・ 哲学の道のサクラを今後も継承していくためには、長期的な視点での更新計画（植え替えや樹種更新）が不可欠であり、植栽環境全体としての再整備が必要である。
- ・ 更新計画では、安全でない木の植替えを検討する、品種や低木樹種等への転換も視野に入れるなど、単に危険木を取り除くだけの計画にならないことに留意すること。
- ・ サクラとキマダラルリツバメの関係については、一般に最小個体群を考えると周辺社寺林など広域的な生息適地があると考えられる。共生するアリは環境嗜好性が強くないため、仮に哲学の道の老齢のサクラがなくなっても、生息適地が他にあれば、長期的に再度老齢化したサクラに生息することは可能であると考えられ、周辺域を含めた生息地調査が必要である。

12

ヒアリング結果のまとめ

舗装化による生物への 長期的な影響

- ・環境に配慮した施工が必要
- ・適度な湿潤（雨水浸透）が望ましい

工事中の配慮事項

- ・夜間工事の照明等
- ・サクラの根に配慮した施工

樹木等の健全な 生育環境の確保

- ・樹木の適切な植栽環境の保全

- 工事中の生物や樹木に対する影響の軽減
- 樹木等が健全に生育できる環境及び路面の検討

13

路面デザイン検討の方向性

路面のデザイン検討の方向性を具体化していくため、
下記について御意見等をいただきたい

● 配慮（検討）項目を踏まえた整備

【配慮（検討）項目】

- ①沿道住民の生活環境への配慮
- ②道路の安心・安全（維持管理面）への配慮
- ③景観への配慮
- ④環境への配慮
- ⑤その他

● 区間に応じた整備内容

- ・ 区間及び、区間毎の整備時期
- ・ 現状の景観に近い砂利風舗装による整備
又は、土系（土風）舗装による整備

14

舗装の紹介(参考資料)

	砂利舗装	自然色舗装	一般的な黒舗装
	自然石移動型	自然石固定型	自然石固定型
イメージ	 	 	 
概要	- 哲学の道（砂利区間） - 砂利又は土が露出した路面状態	- 哲学の道（舗装区間） - 透明な脱色アスファルトを使用して、骨材（石）の天然な色調を生かした舗装	- 広く普及している舗装 - 加熱アスファルトを使用して、骨材（碎石）を結合したもの
維持管理	- 砂利が飛散するため、沿道への飛び石や排水施設への混入が生じる - 局所的な補修が可能だが、頻度は多くなる	- タイヤひねり（交差点や駐車場の出入り口）や経年劣化により、骨材の飛散が生じる恐れ - 補修は一定の面積が必要 - 既設と新設とでは、経年変化等で色合いに差が生じる	- 安価で経済性に優れる - 常温の袋詰め補修材があり、局所的な補修が可能

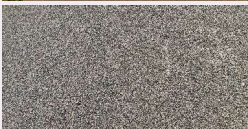
15

舗装の紹介(参考資料)

	薄層カラー舗装	石畳風舗装
	砂利風舗装（自然石固定型）	
イメージ	 	 
概要	- 既設の舗装面の上に、樹脂系の接着材料を均一に塗布して、硬質骨材を固着したもの - すべり止め舗装や透水性舗装も可能	- 白川筋（視察済み） - 骨材の空隙に液状セメントを流し込んだ後、表面処理して石畳風に仕上げたもの - 目地無しや保水性舗装も可能
維持管理	- 補修は一定の面積が必要 - 既設と新設とでは、経年変化等で色合いに差が生じる	- 表面の強度が優れ、骨材が飛散する恐れが少ない - 補修は一定の面積が必要 - 既設と新設とでは、経年変化等で色合いに差が生じる

16

舗装の紹介(参考資料)

	真砂土舗装	透水性高炉スラグ舗装
	土系舗装（自然石固定型）	
イメージ	 	 
概要	▪ 運動場や公園等で広く普及 ▪ 真砂土に固化材を混合して締固めたもの ▪ 主に歩行者向け（車道には適さない）	▪ 賀茂川右岸（視察済み） ▪ 高炉水砕スラグを主要骨材としセメント等を混合して締固めたもの ▪ スラグ表面に微細な空隙があり、保水性に優れる ▪ 一定の条件下で車両通行可
維持管理	▪ 表面の強度が劣るため、沈下や土の飛散が生じる恐れ ▪ 局所的な補修が可能だが、頻度は増加する	▪ タイヤひねり（交差点や駐車場の出入口）や経年劣化により、骨材の飛散が生じる恐れ ▪ 補修は一定の面積が必要 ▪ 既設と新設とでは、経年変化等で色合いに差が生じる